

SEMIMNAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス

No.158
2000.1・2・3

■わが大学		寄贈図書	／8
女子美術大学 学長 小松 弘光	／2	12年度一般会計収支予算書	／8
■故飯田宗一郎名誉館長を偲ぶ	／3・4・5	■私の国際交流	／9
■平成11年度 教育プログラム白書	／6	■わたしたちの合宿	／10
■平成11年度 業務白書	／7	■利用状況	／10・11
■法人ニュース		■主催プログラム開催予告	／12
常務理事会・理事会評議員会報告	／8	■館長室から	／12

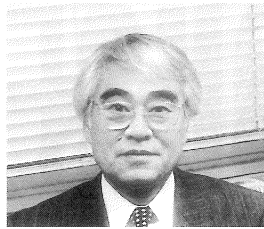


Plain living and high thinking

財団法人 大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.
ホームページ <http://www.mesh.ne.jp/iush/>

女子美術大学

学長 小松 弘光



百年の伝統を二十一世紀に

女子美術大学は、幕末の思想家・横井小楠の義理の娘となった横井玉子と、東京美術学校の教授であった藤田文蔵の二人の協力により、一九〇〇年一月三〇日に設立認可を受け、その後順天堂医院院長佐藤進夫人・佐藤志津に経営を引き継がれた「私立女子美術学校」を母体とする、長い伝統を持つ学校です。本校は私立の美術大学としては日本で最も早くに設立され、本年をもって百周年を迎えるその歩みの中で、多くの優れた作家やデザイナー、教育者を輩出してきました。

間もなく二十一世紀を迎える今日、この百年の伝統の基盤を引き継ぎつつ、具体的教育・研究活動にあつては、来るべき未来に向かって、大胆な改革を行うということが、本学に課せられた課題となっています。

伝統の基盤を引き継ぐという課題については、なによりまず本学創立の精神、その原点に立ち返って、その今日的な意義を深く受けとめるといふことが必要とされていると考えます。本学の設立趣意書には、芸術による女性の自立、女性の社会的地位の向上、女子芸術教育者の育成といった項目が記されていますが、社会の各方面にわたる女性の活躍が著しく、その傾向がさらに発展を見せるだろうと予測される今日、この建学の精神は、ますますその意味を増しこそすれ、決して古びてしまったものではないと思われれます。本学出身の作家には、三岸節子、片岡球子、丸木俊らがいますが、彼女たちはいずれも個性に溢れ、まさしくその仕事を通じて女性の芸術的表現、社会的地位の向上に寄与してきたと申せましょう。また、現在出版や服飾、インテリアコーディネーターなどの諸方面でも、数多くの卒業生たちが活躍中です。さらに本学卒業後に教職に就いている方々も少なくありません。このように設立の精神を、具体的

な形にしながら歩んできた本学の歴史は、すなわち本学が持つ、貴重な財産となっています。

本学はこの百年の間に、設立場所の本郷町から間もなくおなじ本郷の菊坂に、また一九三五年には杉並区和田本町に移転しました。ここ数十年来、女子美の未来の発展に向けて、さまざまな試みが、全学を挙げて取り組まれてきました。

まず手始めとし、一九九〇年には芸術学部を新しく建設された相模原校舎に移し、現在の四学科六専攻の編成としました。一九九四年には大学院美術研究科の修士課程を、九六年には同博士後期課程を設置し、現在は杉並キャンパスに短期大学と付属の中学校・高等学校が、相模原キャンパスに芸術学部と大学院が置かれています。一九九九年度末には、初めて博士号を取得する学生を送り出すことができました。またこの間、韓国の梨花女子大学、アメリカのムーア女子大学との共同企画や、中国の広州美術学院との協力提携などの国際交流活動を行ってきました。

こうした教育・研究環境の充実と国際化へのさらなるステップとして、本学では特待生制度の導入や、大学としてバリエーションを上げたアトリエの提供、奨学金制度の充実など、多方面にわたる取り組みを行ってまいります。教育スタッフの面でも、専任教員の充実とともに、非常勤・客員として俳優の米倉齊加年氏、幸田弘子氏、デザイナーの山本耀司氏らを迎え、学生の多様な知的好奇心に応えられるよう体制を整えています。創立百一年目に当たる二〇〇一年度には、現在の学科編成を一変させ、さらに領域を広げ、各領域を深く学べるような体制づくりが、鋭意進行中です。

産業と技術の高度な発達によって、現代社会は実に複雑で多様な姿を見せています。こうした社会の変化に、美術大学が応える道はどのようなものでありうるのか、昨年四月に学長に就任して以来、その問いが、私の脳裏を去ることはありません。表面的な時代の変化にかかわらず、過去から未来に向けて一貫しているのは「自分自身を率直

に表現したい」「充実感とともに人生をありたい」とする希望であるといえるでしょう。しかし美術を志す者にとって、現代は個性の發揮という面でも、社会への適応という面でも、決して恵まれた環境にあるとは言えません。おそらくは自己の内面を見つめる強靱な思索力と、社会の動向に先駆ける大胆な実行力とが要請されるでしょう。二十一世紀が男女の性役割について新たな知見を開けば開くほど、さまざまな意味で、女性の置かれる社会的な地位も変化するものと思われれます。



故飯田宗一郎名誉館長を偲ぶ



故飯田宗一郎名誉館長略歴

- 一九一〇年 茨城県に生まれる。
- 一九四六年 同志社大学主事就任。
- 一九四九年 東京女子大学初代事務長就任。
- 一九五六年 国際基督教大学就職部長就任。
- 一九六二年 (財)大学セミナー・ハウス理事として設立準備開始。
- 一九六四年 同専務理事就任。
- 一九六五年 (財)大学セミナー・ハウス開設国公立の壁を越え、大学生が寝食を共にして学ぶことのできる独自の教育プログラムを開発。
- 一九七四年 同、館長就任。
- 一九七七年 同、理事長就任。
- 一九八〇年 同、名誉館長就任。
- 一九八三年 三輪学苑創設。
- 一九九九年 1月26日逝去。

今年一月二十六日朝、飯田名誉館長は急性心不全のため国立市の自宅で亡くなられました。九〇歳の誕生日を迎えた二十日後のことでした。二十七日通夜、二十八日には告別式がご遺族により自宅で執り行われ、五月十三日南多磨霊園に納骨されました。

セミナー・ハウスは一昨年の岡宏子前館長に続いて、名実共に偉大な精神的支柱を失いました。セミナー・ハウスの設立と発展は、飯田名誉館長の半生を辿ることなしには語れません。氏は今から四十一年前の一九五九年、当時国際基督教大学就職部長だった頃に「教師と学生との心の交流をつくる合宿研修センター」の構想がまとまったと述懐しています。その後数年間に、語り尽くせない幾多の難関をカリスマ的な力によって乗り越え、六五年七月五日、ついに開館に漕ぎ着けました。

いたからこそ出てきた言葉だったのでしよう。その後のセミナー・ハウスの成長発展は、文字通り氏の献身的な行動によって支えられてきました。

飯田名誉館長のセミナー・ハウスへの残した遺産は計り知れませんが、その最大のものは、この多摩の丘で多くの人たちが出会い、そのネットワークが社会の隅々にまで広がったということだと思います。氏の思いはこれらの方々の心の中に受け継がれ、これからのセミナー・ハウスの精神的な支柱となって生き続けるに違いありません。

本号を編集するにあたり、読者の皆様と共に飯田名誉館長のご冥福をお祈りするために、急遽ゆかりの方々へ追悼文をお願いしました。急なご依頼にもかかわらず快く原稿をお寄せいただいた方々に心より感謝申し上げます。

今秋十月一日には改めて皆様と共に飯田名誉館長を偲び、思い出を語り合う追悼会をセミナー・ハウス主催によりこの多摩の丘で開催することを付記させていただきます。

「故飯田宗一郎名誉館長追悼記念会」のお知らせ

二〇〇〇年10月1日(日) 午後
詳細は追ってご案内いたします。

飯田宗一郎先生を追悼して
大学セミナー・ハウス常務理事 島根県立大学 学長
宇野 重昭

「飯田宗一郎さんという人が私財をなげうって大学セミナー・ハウスをつくっている」ということを聞いたのは、一九六七年のことである。当時はいわゆる「学生闘争」のはしりのころで、大学は騒然としていた。成蹊大学というゼミナール中心の教育に触れて大学教育の意義を再認識していた私は、師弟の寝食を共にした「相互教育」のなかの「開かれた大学」という大学セミナー・ハウスの主張に強く心を惹かれた。私に最初飯田先生の魅力を話してくださったのは、独特のマックス・ウェーバー論で有名な安藤英治先生である。

安藤先生は、一九六四年に成蹊大学に就職してそれまでの外務省との落差にとまどっていた私を終始公私にわたって指導してくださいました。長敬する先輩である。私が飯田先生と大学セミナー・ハウスに興味を示すと、ただちに八王子の丘に連れて行ってくださった。当時セミナー・ハウスはまだ建設中で、講堂や図書館の骨組みの前の赤土が眼に眩しかった。聞くところによると、開館式は2年前に行われたばかりということであった。

しかしお目にかかった飯田先生は、意気軒高としておられた。食堂も簡素ではあったが清楚であった。食事もおいしかった。飯田先生の話では、食事をつくっているのは東京都内でも有数の料理人で、なんでも一番よいものを学生に経験させたいと熱意をこめて話しておられた。「お金より心」、「思想は高潔に」と力説されるお顔はなにか教会の古参役員のような感じがしたが、笑われるときはまさに「飯田さん」であった。

それから一九七四年までの7年間は、私にとって忘れることのできない大学セミナー・ハウスのよき時代であった。私が最初にセミナー・ハウスを訪問したころは飯田さんは専務理事で、理事長は増田四郎先生、館長は茅誠司先生であったが、一九七四年には飯田さんが館長兼専務理事となり、当初からの実力者が名実ともに指導者、「先生」になっていた。この間私もいろいろな委員を経験したが、ここでは大学間の格差を超えた交わりの中に、世代や専門を異にする方々と談笑し、「夢を現実化した」飯田さんを痛感した。共同セミナー委員の一人として現れた岡宏子先生を一例に委員長に起用したのも、「夢を現実化する」同志と考えたからにはかならなかつた。

しかし飯田先生は、まさに信念の人であり、正しいことは正しいこととしてまっしぐらに目標を目指して突き進む人であった。その結果、大学セミナー・ハウスは時代の流れも幸いして大成功したものの、大きくなり過ぎた組織は飯田館長の信念としばしばコンフリクトを生じた。「私は成功し過ぎたのかも知れない」、「個人個人に私の気持ちが伝わらない」と嘆かれるようになったのも一九七〇年代なかば過ぎからのことである。このころになると飯田先生と私は、ハウスに働く人々に対する姿勢と方法をめぐって論争を繰り返すようになった。もともと最後まで信頼関係は維持され、時には朝食を共にしながら相互の見解の共通点を求めた。このころから中川秀恭先生が理事長に就任されるまでの数年間、飯田先生と私との間に交換された手紙は、膨大な量となっている。

そのなかで飯田先生は、しばしば自らのことも語られた。「私は平信徒であり、クェーカー信者であり、世俗社会の中で万入奉

仕者としての信仰を具体化するため、自分の天分を使命として、他者に仕立てきたつもりです。その職場がセミナー・ハウスであったわけです。そして、このように文字にあらわしたものの、文字以外の意味も推察していただきたいとくりかえしておられた。まさに飯田先生は、実践するクェーカー信徒でいらつしやうた。

その飯田先生が突然大学セミナー・ハウス以外に働く場を求めたいといつてこられたのはその手紙の二年後、一九八三年のことであった。いわゆる「三輪学苑」のアイデアの提起である。それから数回、岡先生、板垣与一先生らと私たちは会合を繰り返した。その間、中村元先生の「三輪清浄」の精神、大内力先生の経済学の魅力などを語られるとき、飯田先生は、あのよき時代の生き生きとした顔を取り戻しておられた。ただ私は若かつた助教授時代のように、十分協力ができなかったことが心残りである。

それから20年近く、飯田先生は己に課された使命を最後まで追いつけられたように思われる。「ただこの一事を努め」、「目標を目指して走り続け」、神のみもとに召された人生であった。ただ、愛娘能子さんも語っておられたように、その召された日は突然であった。「大学セミナー・ハウスの鐘をつきに行きたいが」といつてこられた手紙が私にとって最後のものとなった。それだけに訃報をうかがったときの衝撃は大きかった。今もなお茫然たる思いである。聞くところによると「飯田先生を偲ぶ会」が計画されているとのことである。そのときには、私のような個人的な追悼ではなく、もっと本格的な飯田論がうかがえるものと考えている。その行動と思想をあらためて意味のある文字にまとめなおしていくのは、飯田先生に接した人々の、これからの大切な仕

事ではなからうか。

飯田宗一郎氏を偲んで

千人会第一号会員 飯尾 右一

一月二十四日、飯田宗一郎氏よりお手紙を頂く。そのお手紙の後半には、次の様に書かれてあった。「あなたと同時代に生きて、運命の出会いをなし、共通の恩師、山内恭彦先生との交わりをたのしくいたしました。長いつきあいの二十世紀もこの一年で終わります。感慨を深くしています。私は『天の時』を教育にささげ、そのため今日まで貴下の大きな応援をうけましたね。飯田宗一郎」そのお手紙を受け取ってから二日後、飯田宗一郎氏のご家族から、「今朝、父が亡くなりました」との訃報を受け取った。

思えば今から三十五年前、私の恩師であった山内恭彦先生につれられて第一回大学共同セミナーに参加して以来、飯田さんとの交わりが今日まで続くとは、当時は想像もしていなかった。しかし、飯田さんとの出会いは、私に鮮烈な印象を与えたことは確かであった。そして今、その三十五年間の交わりの中で得た「豊かさ」と「大きさ」を、学問の上でも人生の上でも、与えて下さった飯田さんに感謝しつつ、その「死」を素直に受けとめたくない衝動にかられているのである。

多感な時期に、あの大学セミナー・ハウスで、多くの碩学に出会うことが出来、心酔し、生きる喜びを感じ、人生の出会いの楽しさを教えてくれた飯田さんに、今「さようなら」を云わなければならぬなんて……。

火葬場で「また会う日まで」を歌いなが

ら飯田さんを見送った時、飯田さんの「精神」は、我々の心の中に今でも生き続けているんだと心の中で叫んでいた。もし、飯田さんがあの大学セミナー・ハウスを創造していなかったのなら、私の人生は大きく変わっていたにちがいない。それ程までに、あの大学セミナー・ハウスは私の人生に、大きな意味をもたらしたのである。

しかし今、現在の大学セミナー・ハウスを見渡した時に、創立者としての飯田宗一郎氏のごとにもあまり明確でないことが残念でならない。私立大学に建学の精神がある様に、大学セミナー・ハウスにも設立の精神があることを信じてやまない一人である。飯田さんの残された大きな足跡に感謝しつつ、心からご冥福をお祈りする次第です。

(※ちなみに千人会第一号会員は山内恭彦博士である)

飯田宗一郎氏を偲んで

ITER共同設計チーム 海老澤 克之

はじめて飯田宗一郎氏と出会った時の事を思い出します。大学セミナー・ハウスの開館を記念する第一回大学共同セミナーのことでした。大岡山の薄暗い実験室からポットでの私にとって、華やかな女子学生の歓声もこだまする多摩丘陵のユニークな施設は輝く別世界。「世界の中の日本」という壮大なテーマもあまり理解せぬまま、われら若いひよこは夜を徹するかのように語り合います。将来の科学者を目指していた私も大胆にも科学者の社会的責任について熱弁し、大学共同セミナーの体験に皆が興奮しました。そのセミナーの終わりに、飯田氏は大

学セミナー・ハウスの設立開館に至るまでの経緯を語ってくださいました。学生を愛してやまぬ情熱を内に秘め、賛同者を募るための行脚、資金集めの奔走の日々があったことを茨城なまりでとつとつと語っておられました。故佐藤喜一郎氏などの良き理解者を得て開館にこぎつけられたところでは、お声も震えがちで聞かざるをえて襟を正す思いでした。司会者の曰く「諸君は今ここに、社会的責任を果たしている一人の教育者を目にしてゐる」と。若いひよこにも真の教育が何であるかを学びました。

それから二十有余年後、危うく会社人間（あるいは社畜とも称される）になりそうな私達に飯田氏は再度学びの場、生涯学習としての三輪学苑を設けられました。そこで、戦後最悪の経済危機に対して氏はこうも述べられています。「あなたは若い。よい時代に出会ったと思いなさい。民族も、個人も試練を受けることです。その試練があつて希望が生まれ、忍耐の修煉ができる。」常によき学びの場を与えんとする奉仕に貫かれた。生涯は、大学セミナー・ハウスの開館の際歌われたバツハのカンタータ第20番、「汝の喜びは花と咲き輝き、汝の労したもう教えのわざにより、よき若木若芽の育ちて、いつの日にか国の飾りとならんことを」の響きそのものであり、心中唱和しつつ飯田宗一郎氏に感謝いたします。

飯田宗一郎先生を偲んで

(株)国際規格研究所 藤本 紘

昭和40年7月5日朝早く、雨上がりの八王子下柚木の丘を訪れたときは、逆三角形の建物と泥濘の強烈な第一印象があつたものの、その後35年間も人生の師と仰ぐことになる

「先生」に出会うとは思っていませんでした。飯田先生は混沌の中から何かオリジナリティのあるイメージを、構想に纏め上げ、力の有る人を説得し、協力を得て実現するというパワーと、神のみを畏れ権力に阿ない高い精神性（時にはわたしのようなクリスチャンで無い凡人には、後になって分かる様なケースもありましたが）、それに生命の若さを枯らさない人でした。黒沢明の映画「生きる」では、命を懸けて作り上げた公園を助役の手柄にされてしまう市役所課長が出てきますが、飯田先生の場合も世間は聖なるものに相応しい接遇を行ったか疑問に思う方もおられるでしょう。

私にとつて飯田先生とは、「お話を聞くうちに次第に自分の背筋が伸びるのを実感する」という存在で、俗っぽさに反省を促し社会人はこうあるべきという道筋を示してくれる道標でしたし、また人真似でない創造的な仕事をせよという哲学を身をもって示した大先輩でした。果たして飯田先生の話されたことの何十分の一を自分が実行できたか、甚だ心許ないのですが、最後の気骨有る明治人に35年間ご指導頂いたのは幸せな事だと思えます。しかしながらここ二十年、折角の三輪学苑に半分ぐらいしか出席できなかったこと、又今年の正月ぐずぐずしていた為、年始に何う前に亡くなられた事が今更ながら残念なこととして心に引掛かつております。

飯田宗一郎先生を偲んで

日本女子大学ウエルシングセンター 桜井育子

4月8日は花祭り、関東地方の桜の開花が報じられました。例年ならば飯田先生のご自宅の

ある「国立の桜」にセミナー・ハウスの同窓生が誘い合つて集う待ち遠しい季節でした。「いい按配だよ」と知らせてくださるお声が今年ももう届かないのです。セミナー・ハウスの生みの親である飯田宗一郎先生を知るかつての学生にとつてその存在はあまりにも大きく、先生を追憶するのに言葉が失います。

先生に初めてお目にかつたのは第3回大学共同セミナー「科学と宗教」に参加した、大学一年生の一月でした。シンポジウムの会場に忘れものを取りに引き返すと、学生たちの使った茶湯用具を一人黙々と片付けている背の高い紳士の姿が目に入りました。30余年前の地方出身の私には、紳士が自らやかん等を手にすることは考えられないことでしたから、その姿に息を呑みました。夕食後の交歓会でその紳士こそ、「大学セミナー・ハウス」という新語を創造し、人づくりの「夢を有形に」実現した飯田専務理事だと紹介され、再び驚きました。この時の山内恭彦、中村元先生の叡智が凝縮された講義ノートは今も大事に読み返しています。私にとつてその後の人生における羅針盤となつた先達との出会いの始まりでした。こうした人間形成の場を学生に提供したいというセミナー・ハウス構想は、先生のご自宅を担保することから現実化への道を一歩踏み出したと伝え聞いています。開館一周年にはセミナー・ハウスの理念に共鳴した7大学11人の学生が第6回共同セミナーを企画し、式典の準備をしました。学生と一緒に徹夜をして準備を手伝ってください。飯田夫人のお姿も忘れられません。あれから35年、先生には親子2代に亘つてご指導をいただき、有難い縁（えにし）に感謝いたします。先生がごことあることに説いておられたセミナー・ハウスの標語、「思想は高潔に生活は簡素に」のお声は今も聞こえて来る思いです。

合掌

飯田宗一郎先生を偲んで

作家

篠田節子

初めて出会った25年前から翁だった。好々爺ではない。小言爺である。二泊三日の芸術セミナーが終わり、学生たちがそれぞれの感激を胸に、肩を抱き合い、別れを惜しんだ。レモニーの最後に、マイクを手にした、白髪、白眉の館長から厳しい注意が飛んだ。「立食パーティーの席上で若い諸君等が椅子に座るとは何事か。前菜からデザートまで一皿に山盛りにするとは作法も甚だしい」

その後、私が十数回参加した共同セミナーでも、飯田館長は組織の長にふさわしい表面的寛容さを装うことも、我々嫉の行き届かぬ若者に媚びることもせず、常に苦言を呈し続けた。施設内の小道の整備を求められたときには、「諸君等は老人でも、障害者でもない。このくらいの道は自分の足でしっかり歩け」と答えられた。その後、セミナー・ハウスについてのエッセイで、私がこの言葉をそのまま引用したとき、編集担当者が顔色を変えて削除を要求してきたことは、飯田館長の姿勢を示している興味深い。教育者としての情熱と愛を若者に注ぎながらも、決して言葉尻でごまかすことにはしない人だった。

昨年、岡宏子先生の追悼会でお目にかつたとき、飯田元館長は二十五年前と少しも変わらず、機知に富んだ硬骨漢のままだった。学生達を前にしたらすぐにも小言を言い出しそうに見えた。

この冬、翁はゆつたりと橋がかりを通り退場していった。先に逝かれた先生方と向こうでどんな話をしていらつしやるのか。ご冥福を心からお祈りしたい。

平成11年度 教育プログラム白書

平成11年度は表1の通り、大学共同セミナー3回、大学院共同セミナー1回、土曜セミナー4回、大学教員懇談会1回、大学教員研修プログラム2回、大学職員研修プログラム2回、国際学生セミナー1回の計14回を実施した。

表1 平成11年度教育プログラム開催状況

■大学共同セミナー				
回数	期間	主 題	講 師	参加人数
180	1999年 7月2日～4日 (2泊3日)	現代社会と人間存在 —変容する世界と人間	見田宗介、竹内敏晴、鳥山敏子、 井上信子、平山満紀、加藤彰彦	73名 (22校)
181	12月11日～12日 (1泊2日)	フィールドワークの魔力 —その愉しみと苦しみ—	園田茂人、山本真鳥、山中速人、 佐藤郁哉	46名 (20校)
182	12月17日～19日 (2泊3日)	地球市民になろう part3— 「暴力の文化」を「平和の文化」へ—	天川恵美子、岩田昌征、古沢希代子、 白井久和、首藤もと子、杉田明宏、 松本 学	24名 (13校)
■大学院共同セミナー				
17	1999年 10月22日～24日 (2泊3日)	カルチュラル・スタディーズとグローバリゼーション— —国民国家、「第三世界」、ディアスポラ—	岡 真理、上野俊哉、田崎英明	31名 (15校)
■土曜セミナー				
3	1999年 9月11日	地球環境を考える	市村禎二郎、井口泰泉	29名 (5校)
4	1999年 10月9日	現代医療の問題点…とくに 安全を巡って	村上陽一郎	18名 (4校)
5	1999年 11月27日	視覚芸術とイリュージョン	藤枝晃雄、谷川 渥、小松 弘	32名 (14校)
6	1999年 12月4日	「すばる」でどこまで宇宙 が見えてくるか	唐牛 宏、岡村定矩	28名 (4校)
■大学教員懇談会				
36	1999年 7月10日～11日 (1泊2日)	入りやすく、出にくい大学？ —大学審答申への対応—	黒田玲子、絹川正吉、平野健一郎、 大南正瑛	81名 (50校)
■大学教員研修プログラム				
18	1999年 9月18日～19日 (1泊2日)	授業をどうする—あなたは 学生に何を伝えたいか—	示村悦二郎、佐々木一也、堀 喜久子、 佐藤久美子	72名 (60校)
19	2000年 1月22日～23日 (1泊2日)	どうする「厳格な成績評価」	阿部美哉、阿部和厚、桐原保法、 濱名 篤、田中義郎	102名 (63校)
■大学職員研修プログラム				
1	1999年 7月14日～15日 (1泊2日)	これからの大学をどう支え るか	大崎 仁、小日向 允、桐原保法	87名 (59校)
2	1999年 10月12日～13日 (1泊2日)	これからの大学をどう支え るか-part2-	寺脇 研、黒羽亮一、桐原保法、 井原 徹	60名 (40校)
■国際学生セミナー				
26	1999年 11月19日～21日 (2泊3日)	21世紀の世界秩序をどう創 っていくか—パワワード・マネー — エシックス—	波多野敬雄、滝田賢治、山本吉宣、 渡邊啓貴、金子 謙、宇佐美滋、 茅原郁生、勝俣 誠、石見 徹、大 芝 亮、R.A.モース	84名 (22校)

表2 平成11年度教育プログラム参加状況

学校名	男	女	計	学校名	男	女	計
東北	2		2	津田塾		4	4
群馬		1	1	帝京	4		4
筑波	1	2	3	東海	1		1
埼玉		1	1	東京経済	4	5	9
千葉	3	2	5	東京純心女子		1	1
お茶の水女子		4	4	東京女子		5	5
電気通信	1		1	東京薬科	5	4	9
東京	5	2	7	東京理科	1		1
東京外国語	3	3	6	東邦	1		1
東京芸術		1	1	日本	9	3	12
東京工業	3	2	5	日本女子		18	18
一橋	4	11	15	武蔵	1		1
山梨医科	1		1	法政	9	7	16
大阪		1	1	明治	6	1	7
国立小計 (15校)	23	31	54	明治学院	1	1	2
東京都立	1	1	2	明星	6		6
横浜市立		2	2	立教	2	3	5
公立小計 (2校)	1	3	4	早稲田	8	6	14
跡見学園女子		3	3	和光	1		1
聖学院		1	1	東洋英和女学院	1	5	6
東京国際	1		1	フェリス女学院		9	9
文教	1		1	大阪女子		1	1
江戸川	2		2	私立小計 (39校)	93	112	205
青山学院	3	1	4	東京都立短期		1	1
桜美林	3	2	5	上智大学短期		3	3
学習院	1	1	2	明治大学短期		1	1
慶應義塾	1	2	3	武庫川女子大学短期		1	1
恵泉女学園		1	1	短期大学小計 (4校)		6	6
国際基督教	3	1	4	東京デザイナー学院	1		1
成蹊		1	1	自由学園	1		1
聖心女子	2	5	7	その他小計 (2校)	2		2
創価		2	2	社会人	54	40	94
大東文化	1	1	2	総合計 (62校)	173	192	365
中央	16	11	27				

表2は主に学生を対象とするプログラム(大学共同セミナー・大学院共同セミナー・国際学生セミナー)と社会人および学生を対象とするプログラム(土曜セミナー)の計9回の大学別参加状況表である。参加者総数は62校(昨年61校)・365名(同377名)で、1回あたりの平均参加者は40名となった。

教職員を対象とするセミナーは、大学教員懇談会と大学教員研修プログラム、新たに今年度から開催された大学職員研修プロ

グラムを合わせて計5回開催し、合計402名(昨年221名)の参加者が国公私立の壁を越えて昨今の大学問題に関して意見交換を行った。大学職員研修プログラムは新しい試みであるにもかかわらず2回で147名の参加者を集め、特に7月に行われた第1回ではお断りしなければならぬほど申込が殺到し、ニーズの高いことを示した。また、1月に行った大学教員研修プログラム「どうする『厳格な成績評価』」には全国から100名を超える参加者が集い、大学審議会答申で話題

になっている成績評価の問題について議論が行われた。

最後に、各セミナーで講師を務められた諸先生方、プログラムの企画・運営にあられた共同セミナー委員会、大学教員懇談会企画委員会、国際プログラム委員会、大学教員研修プログラム委員会、大学教員懇談会企画委員会、国際プログラム委員会、大学教員懇談会企画委員会、国際プログラム委員会、大学教員研修プログラム委員会の各委員、そしてセミナーに参加された方々に改めて感謝の意を表したい。

表1 利用者別状況表

() 内は前年度

利用者	人数	グループ数	比率 (%)	宿泊実人数	比率 (%)	宿泊延人数	比率 (%)	1団体平均人数
会員校	356(400)		54	10,978(12,744)	55	16,417(18,685)	54	31(32)
非会員校	97(102)		15	3,550(3,951)	18	4,917(9,081)	16	37(39)
大学連合	49(47)		8	1,704(1,825)	9	2,591(3,375)	9	35(39)
学術教育団体	97(86)		15	2,671(2,740)	14	4,746(4,613)	15	28(32)
企業・社会人	51(61)		8	839(1,291)	4	1,689(2,479)	6	16(21)
合計	650(696)		100	19,742(22,551)	100	30,360(38,233)	100	30(33)

●年間の宿泊利用者数三〇、三六〇人
平成十一年度の宿泊利用者数は延べ三〇、三六〇(月平均二、五三〇)人、グループ数は六五〇(同五四)グループであった(表1)。昨年以上に厳しい事業実績となった。対前年比は七、八七三人減少で、非会員校の減少が目立った。四年間続いたマレーシア政府派遣留学生の利用が今年度は中断したために、第四四半期はまとめて約三、〇〇〇人が減少。今年度は開館二年目の二四、一二二人に次ぐ三番目の低さであった。こうした状況の中で、閑散期割引制度の導入、大学生協との連携、三多摩地区の教育委員

図1 利用グループ構成比

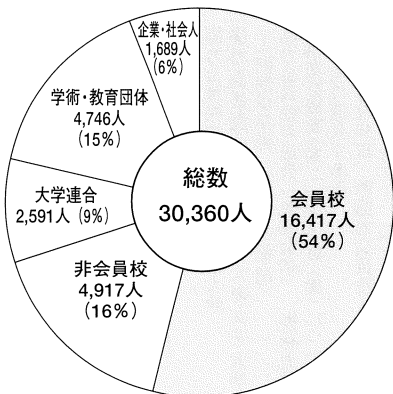
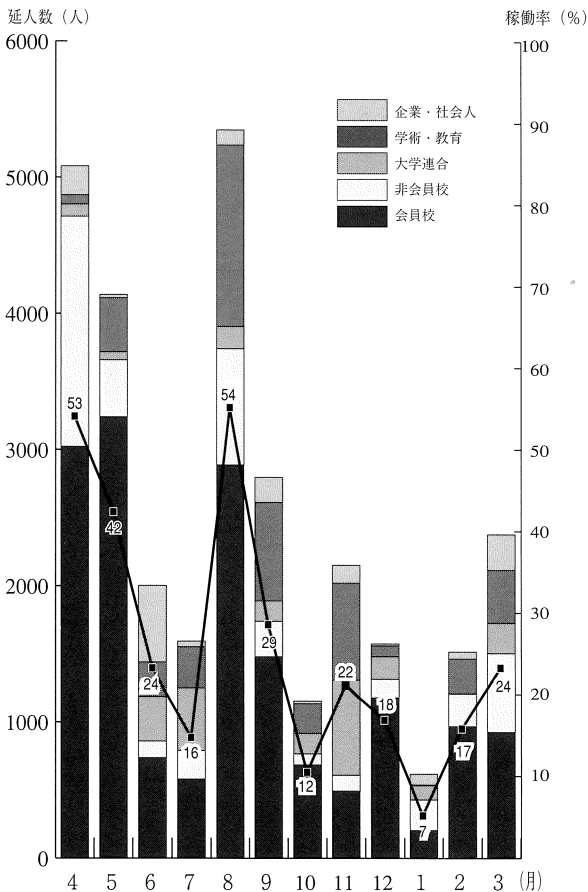


表2 協力会員校最多利用上位校

大学名	グループ数	大学名	宿泊延人数
中央大学	44	中央大学	2,775
立教大学	20	明星大学	1,133
日本大学	19	東京工科大学	832
早稲田大学	19	早稲田大学	608
東京学芸大学	18	日本大学	579
一橋大学	18	東京薬科大学	531
東京都立大学	16	立教大学	511
東京大学	13	東京都立短期大学	497
法政大学	13	白梅学園短期大学	463
明治学院大学	11	東学学芸大学	424

会への利用促進、年末年始の休館日の営業、受験生の受入れの拡大、ワイン・アカデミーなどのイベント開催によって地域の各種関係団体への利用促進など新しい試みを行った。年末年始の宿泊パックは延べ七二名、昨年から続けている受験生の宿泊は、延べ一〇六(昨年九七)名、実人数六二(同三四)名の利用であった。

図2 月別・利用者別宿泊延人数と稼働率



●グループ別の利用状況
宿泊延べ人数に占めるグループ別の構成比は図1に示す通りである。会員校の利用は一六、四一七人で、構成比は五四(前年度四九)%であった。大学連合には当ハウス主催の各種プログラムをはじめ会員校の教員・学生が多数参加しているため、会員校の利用率は実質的にはこれより高い。非会員校を加えると大学関係の利用の構成比は計七七%となるが、一方、学術・教育団体にも大学関係者が相当数含まれる。大学関係の利用は、やはり「ゼミ合宿」が主流だが、続いてサークル等課外活動の合宿も例年多い。また、春から夏にかけて、新入生の合宿研修(オリエンテーション)が繰り返されるが、クラス単位以上の合宿は計四五グループ(二六校)、延べ六、五〇〇人を数えた。

●年間の稼働率は二七%
本年度の当ハウスの稼働日数は、年末年始の休館八泊(年末年始の宿泊パックを実施したが、今年度は従来通りとした)と六月の施設整備期間四泊分を差し引いた三三三日で、二七%であった。図2に月別・利用者別の利用状況と稼働率を示した。

●年間の稼働率は二七%
本年度の当ハウスの稼働日数は、年末年始の休館八泊(年末年始の宿泊パックを実施したが、今年度は従来通りとした)と六月の施設整備期間四泊分を差し引いた三三三日で、二七%であった。図2に月別・利用者別の利用状況と稼働率を示した。

平成11年度 第4回常務理事会

00年1月17日/アイビーホール・青学会館

〔出席者〕(常務理事)宇野重昭、絹川正吉、小山由丸、中嶋嶺雄(法人)、佐野博敏(理事長)、本江哲郎(専務理事)、「オプザバー」三宅彰(評議員会議長)

●主な議題
崖崩れに伴う諸問題、千人名簿作成、飯田名誉館長の追悼記念会、第96回理事会・第76回評議員会の議案の確認。

平成11年度 第5回常務理事会

00年3月16日/アイビーホール・青学会館

〔出席者〕(常務理事)宇野重昭、絹川正吉、小山由丸、中嶋嶺雄(法人)、佐野博敏(理事長)、本江哲郎(専務理事)、「オプザバー」三宅彰(評議員会議長)

●主な議題
崖崩れに伴う諸問題、千人名簿作成、飯田名誉館長の追悼記念会、第96回理事会・第76回評議員会の議案の確認。

第96回理事会

00年3月16日/アイビーホール・青学会館

〔出席者〕(順不同・敬称略)〔出席理事〕佐野博敏、本江哲郎、天城勲、石弘光、宇野重昭、荻上絢一、絹川正吉、小山由丸、中嶋嶺雄

〔委任状による理事・監事〕10名
議事に先立ち、佐野博敏理事長より開会の挨拶があり、一同去る1月26日に亡くなった飯田宗一郎名誉館長へ黙祷をさされた。引き続き佐野理事長が議長となり、各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑応答・審議の結果、いずれも原案通り承認された。

▽崖崩れに伴う諸問題について
飯田名誉館長追悼記念会について
実施については今後運営委員で検討することとなった。
▽千人名簿作成の進捗状況について
▽役員人事について
協力会員校の学長交替に伴う中央大学新学長の鈴木康司氏の新監事新任と同大学前学長の外間寛氏の監事退任。
▽評議員人事について

協力会員校の学長交替に伴う評議員の新任(就任承諾書は提出済み)・退任。
(新任) (退任) (大学/役職)
半田 正夫 國岡 昭夫 青山学院大学/学長
相磯 秀夫 高橋 茂 東京工科大学/学長
秋山 正幸 梶原長雄 日本大学/学長
黒須 隆一 波多野 重雄 八王子市/市長

▽協力会員校の加入・退会について
協力会員校の加入・女子美術大学
(人間関係学部、比較文化学部)
協力会員校の退会・東海大学、杏林大学
(国立14、公立3、私立45)であるが、退会のため、約三〇〇万近い減収が見込まれる。

①協力会員校58校、準協力会員校4校で計62校(国立14、公立3、私立45)であるが、退会のため、約三〇〇万近い減収が見込まれる。
②事務組織では11年度中に5名(1名は定年退職)の退職者があり、事務の効率化を図るため、3課制から2課制へ組織替えを実施した。
③宿泊収入については、平成11年度は述べ三〇、四九〇人で、対前年度比七、七四〇減が見込まれている。平成11年度に引き続き厳しい状況ではあるが、一層の利用促進を図りつつ、努力目標を含めて来年度は、利用者数を延べ三〇、〇〇〇人と設定、これに基づいて前年度よりも大幅に抑制した事業計画・収支予算を立案した。

④固定資産取得支出、修繕費については、施設・設備の改修の必要性は逐年増加しているところであるが、加えて昨年キャンパス内の崖崩れの事故跡を本格的に修復工事を行う必要があるが、二、五〇〇万円を計上した。
⑤セミナー会費収入のうち、国際学生セミナーは従来の日本国際教育協会からの共催費が来年度より打ち切られることとなったため、参加収入のみとなる。その他のセミナーとして、12年度より「フィールドワーク体験セミナー」3本と「世界とアメリカセミナー」1本を予定したため、七、六六九、〇〇〇円の予算を見込んで計上した。

⑥一般寄付収入では、従来千人名簿費を特別会計として取り扱ってきたが、文部省からの指導もあり一般寄付とすることとし、積立金二、〇三九万円と12年度の千人名簿費収入見込みの二五〇万円の全てをあわせて一般会計の寄付金に繰り入れることとし、全額を崖崩れに伴う復旧工事に充てることとした。

平成12年度一般会計収支予算書(案) 総括表

(平成12年4月1日～平成13年3月31日) (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
基本財産利息収入	8,300	〈管理費〉	65,888,000
会費収入	59,500,000	人件費	29,151,000
事業収入	106,620,000	施設管理費	30,039,000
施設改修協力金収入	5,910,000	一般管理費	6,698,000
セミナー会費収入	16,899,300	〈事業費〉	137,676,600
補助金等収入	1,721,000	人件費	54,234,000
寄付金収入	23,020,000	一般事業費	64,089,600
雑収入	6,768,100	普通セミナー事業費	11,631,000
繰入金収入	0	学生指導セミナー事業費	5,710,000
その他の収入	0	国際学生セミナー事業費	2,012,000
		〈固定資産取得支出〉	26,650,000
		〈特定預金支出〉	6,500,000
		〈繰入金支出〉	0
		〈予備費〉	1,000,000
当期収入合計(A)	220,366,700	当期支出合計(C)	237,714,600
前期繰越収支差額	45,000,000	当期収支差額(A)-(C)	-17,347,900
収入合計(B)	265,366,700	次期繰越収支差額(B)-(C)	27,652,100

(注) 消費税の処理は税抜き方式によっている。

⑦雑収入では、NTTドコモのハウスの敷地使用料として約一〇〇万円の賃貸料が入るなど、一、五八八、四〇〇円の増額となる。
⑧特定預金支出では、平成11年度の減価償却積立預金二千五百万円であったが、12年度は諸般の事情から五〇〇万円とした。また、新たに退職金積立金支出として一五〇万円を積算した。

平成11年度・第76回評議員会

00年3月16日/アイビーホール・青学会館

〔出席者〕(順不同・敬称略)

〔出席評議員〕三宅彰、有山正孝、井早康正、川原栄峰、松本浩之
(法人) 佐野博敏、本江哲郎

〔委任状による者〕49名
三宅評議員が議長となり、各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑応答・審議の結果、いずれも原案通り承認された。
(内容は第96回理事会に同じ)

寄贈図書

00年1月～3月

〔大学の授業〕 東信堂殿
〔現代ヒンディー短編選集1〕 大同生命国際文化基金殿
〔76歳、山の楽しさと恐ろしさ〕 尾形 憲殿
〔神学 61号〕 東京神学大学殿
〔乳幼児の発達と指導(改訂版)〕 大野澄子殿
〔日本学生経済ゼミナール参加論文集(上下)〕 駒澤大学・瀬戸内ゼミ殿
〔証人 内海愛子尋問調書1「訴状」〕 内海愛子殿
〔みやこどり〕 東京都立大学体育会本部殿
〔小数ができない大学生〕 京都大学経済研究所・西村和雄殿
〔北に一星あり(第五集)〕 小樽商科大学殿
〔行動するリベラルアーツの素顔ICUのリベラルアーツ教育1〕 絹川正吉殿

私の国際交流

高校生交換留学生の受け入れの オリエンテーション

—「コミュニケーションと発見」をテーマに—

日本国際交流振興会留学生受入担当
プログラムマネージャー 道満恵子

日本国際交流振興会（J F I E）は、国内外の青少年ならびに教育関係者の方々とともに、国際教育ならびに総合文化交流の普及促進を図るための研究と実践を通して、国際友好親善に寄与すること、並びに自国や他国の文化についての深い認識や広い理解を持ち、国際社会に貢献できる人材の育成を目的として活動しています。

1999年には、経済企画庁より特定非営利活動法人（NPO）としての認証をうけ、公益に資する以下の活動を全国に展開しています。高校生交換留学生受入れ、高校生交換留学派遣、高校生私費留学派遣、国際教育ワークショップ、国内インターナショナルキャンプ、国際教育プログラムの企画・監修。

J F I Eでは、日本並びに各国の若者を、日本や日本語をよく理解する国際的な人間に育て、将来の日本と、果ては世界のありかたに寄与することが、私達の大きな役割であると認識し、受入れプログラムの発展に力を入れています。J F I Eの高校生交換留学生受入れは、3月下旬の

来日、翌年1月中旬に帰国という10ヶ月のプログラムを主体に運営しています。

今年はおอสเตรเลีย、ニュージーランド、アメリカ、ドイツから71名の留学生が来日しました。10ヶ月プログラムの留学生は全員が1年以上の日本語学習経験をもった日本来日希望者から募ります。毎年、ここ八王子の大学セミナー・ハウスで行う到着オリエンテーション（3泊4日）では、日本で暮らす上での必要事項の確認、ディスカッション・ケーススタディーなどを通じて、留学の目標と夢、交換留学生としての役割・使命を、留学生自身が再確認、再設定するための時間を提供しています。

セミナー・ハウスから遠くに聳える富士山を望むことで、



みんなの前で自己紹介を日本語で練習する留学生たち——講堂にて

日本に憧れと希望をもって来日した留学生は改めてその志を確固としたものにします。国際交流という大きな流れの中で、今年「コミュニケーションと発見」をテーマとして留学生に投げかけました。

「コミュニケーション」を通じてどれだけ多くの「発見」を日本にもたらしてくれるのか？どれだけ新しい「発見」に日本で遭遇するのか？将来どのような「コミュニケーション」方法で、このプログラムでの「発見」を周囲に伝えていってくれるのか？J F I Eではこのテーマに添って留学生を指導していきます。3月31日、留学生はセミナー・ハウスを後にし、全国に旅立ちました。留学生を支えてくださるすべての方に心より感謝申し上げます。

連絡先：日本国際交流振興会（JFIE）

TEL.03-3496-8866

ホームページ <http://www.jfie.gr.jp>



セミナー・ハウスでの研修の後全国に旅立つことになっている3カ国71名の留学生たち——ようこそ広場にて

わたしたちの合宿

膝を交えて議論することの大切さ — 文化会の活動方針をめぐって —

東京経済大学経済学部三年

菊地 治滋

毎年この三月に私たち東京経済大学文化会は、次年度の会の方針を話し合うために34サークルの幹事、副幹事と文化会の本部役員、促進委員らが集まってリーダーズキャンプを行う。この会は、東京経済大学の文化、学術、芸術の発展と向上に寄与し、学生生活の充実に努めようという団体であり、現在34サークルが加盟し、人数は千人程である。個々のサークルが独自に活動を行っている一方で、文化会全体としてもさまざまな行事に取り組んでいる。

五月中旬には、代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターで一年生を対象にフレッシュマンキャンプ、六月には文化会サークルが一丸となってそれぞれの活動発表や文化会をアピールしようという文化会企画、そしてより多くの友人をつくってもらうことを目的とし、文化会としての団結力も深めようという親睦会など。

十一月の葵祭では一年間活動してきた集大成として、研究内容を展示したり、野外ライブを実施するが、そのときには学校全体が揺れているようで凄まじい熱

気に包まれる。こうした活動を通して、私たち文化会では学問は勿論のこと、学生生活を有意義に過ごしている。

しかし物事を始めるには目標が必要である。この三日間で文化会の目標を話し合ったが、サークルの代表である幹事と副幹事ということもあって活発に意見が飛び交う。なかでも活動場所についての意見や質問が目立ったので、校内の改修工事のことも踏まえつつ検討していきたい。

その他にも、文化会サークル員や他の学生も利用している学生会館の問題なども話し合ったが、自分のサークル以外の人が何を考えているのか、文化会とはどのようなものなのかを根底まで考えることができた。四月から始まる新入生歓迎期間を皮切りに新体制で臨む新しいリーダー達にとっては、有意義な三日間だったと思う。

この合宿では文化会の方針を決めること以外に、会員同士の親睦を深める意味もあった。初日はお互いあまり話はずまなかったが、食事や風呂を共にするうちに、次第に打ち解けて来て、二日目の夜の親睦会では、大いに会話を楽しむことができた。二日間にわたる会議でも疲れているはずなのに、参加者の顔から笑みがこぼれていたのが印象に残った。

三日間を通して感じたことは考えることの重要性である。百人いれば百通りの考え方があろう。しかしそれをまとめて実行するまでにはたくさんの努力と労力が

いる。文化会の活動を円滑に行うためには、各サークルリーダーの意見をよく聞きながら、じっくり考えなくてはいけない。私だけではなく、この合宿に参加した一人ひとりがこのことを実感したのでないかと思う。

これまで毎年利用し続けてきたこのセミナー・ハウスは、親睦を深めつつ、議論するには最適な施設である。決して便利な施設とはいえないが、いろいろなところに参加者の心の交流を促進する仕組みがある。これからもセミナー・ハウスを私たち文化会の活動のスタート台として活用していきたい。



大いに議論と懇親を深めた文化会リーダーたち—— 出合いの丘の階段で

利用状況

’00年1月～3月
* 11月2回利用
* ** 11月3回以上利用
日帰り利用はグループ数のみ
(延べ人数には日帰りの利用者
は含まず)

■ 1月 (22グループ、延六一九人)

一橋大学教授 嶋田 忠彦
恵泉女学園大学講師 古沢希代子

中央大学教授 田野崎昭夫

一橋大学教授 藤田 和也

東海大学教授 師岡 孝次

学習院大学教授 河合 秀和

東京都立大学教授 岩楯 敏広

東京外国語大学教授 田島 信元

東京大学教授 北岡 伸一

東京神学大学第31回就職セミナー 井出健二郎

和光大学講師 森田 明

東洋大学教授 受験生

第19回大学教員研修プログラム

日本ネイチャーゲーム協会

年年年始宿泊パックス

〈個人利用〉 大沼加寿子

宮川 俊彦

〈日帰り利用〉

一穂会

ソニー生命保険

高嶺小卓球同好会

■ 2月 (50グループ、延一、五一六人)

法政大学講師	前田 邦彦	東京工業大学建築学科	日本大学徳江研究室	明星大学教授	光成 豊明
中央大学教授	谷口 洋志	創価大学教授	早稲田大学絵画会	創価大学卒業委員会	
東京学芸大学教授	大熊 徹	聖学院大学ハンドベルクワイア	駒澤大学助教授	東京会計法律学園教職員研修**	
駒澤大学助教授	谷敷 正光	武蔵野美術大学自動車デザイン研究会	中央大学教授	獨協大学教授	後藤 卷則
東京外国語大学教員研修	数土 直紀	聖学院大学・女子聖学院短期大学キリスト教八王子合宿	千葉商科大学教授	獨協大学教授	宮川 淑
学習院大学助教授	瀬戸岡 紘	受験生	明星大学通信教育部	獨協大学教授	大竹 孝司
駒澤大学教授	林 吉郎	郡内研究会	中央大学助教授	秀明大学助教授	山口 桂子
青山学院大学教授	伊藤 玄三	由木キリスト教会	筑波大学数学教育研究室	受験生	
中央大学音楽研究会	古石 篤子	万国ローア・バプテスト福音伝道協会	東京経済大学文化会リーダーーズマンキャン	郡内研究会	
日本大学栖原ゼミ	吉竹 広次	日本グループワーク・トレーニング協会	日本大学教授	哲学研究会	
法政大学教授	寺東 寛治	日本山岳協会	東京大学比較文学比較文化研究室	古田研究室	
慶應義塾大学助教授	新澤 雄一	朝日カルチャーセンター・横浜	千葉大学教授	首都圏ファンタジーグループ研究会	
杏林大学助教授	石井美智子	第3回HIV/AIDS患者支援通訳養成講座	成蹊大学教授	キリストの教会伝道学院	
早稲田大学戦史研究会	吉野 孝	象設計集団	東京外国語大学教授	システム連合	
青山学院大学教授	角田 収	日本POP広告協会	大妻女子大学教授	日本ゲオルク・ビューヒナー協会	
早稲田大学教授	吉川 信	〈日帰り利用〉	明治大学教授	文学教育研究者集団	
帝京大学書道部	吉本 昌司	ズームエンジニアリング	千葉大学助教授	日本国際交流振興会	
東京都立大学教授	濱田 辰雄	V研究会	東京学芸大学教授	ケンウッド	
東京学芸大学幼稚園科教室	山本 明男	聖学院大学	東京学芸大学ポリヴァアレントゼミ	医療法人永生会リハビリテーション医科学研究会	
日本大学教授	日帰り	日本建築学会	早稲田大学コンツェルト	小松ゼノア	
アイセック慶應義塾大学委員会	中央大学入野田ゼミ	日本建築学会	東京都立大学助教授	合唱団センツァノーマ	
明治学院大学II部体育会	第3回ワインアカデミー	日帰り	中央大学助教授	ライブ化粧品	
東京外国語大学助教授	■3月(63グループ、延二、三七七人)	中央大学入野田ゼミ	千葉大学教授	生活協同組合コープとうきょう	
一橋大学模擬国連	東京経済大学助教授	中央大学教授	中央大学教授	〈個人利用〉	
東京都立大学助教授	中央大学教授	千葉大学教授	千葉大学教授	V研究会	吉本 昌司
千葉大学教授	杏林大学教授	立教大学教授	立教大学教授	〈日帰り利用〉	
東京都立大学マルクス主義と現代の会	根本 忠明	根本 忠明	根本 忠明	茶道研究会*	
日本大学教授	根本 忠明	根本 忠明	根本 忠明	多摩丘陵の自然を守る会	

2000年（平成12年）度・主催プログラム開催予定

■大学共同セミナー・大学院共同セミナー

回数	期間	主 題	講 師
第183回	6月16～18日 (2泊3日)	沖縄、アジア、日本—高岩仁三部作「教えられなかった戦争」を観る・考える・語り合う	高岩 仁、藤岡明義、林 博史 金 富子、池田恵理子
第184回	10月27日～28日 (1泊2日)	「地球市民になろう」パート4	(未定)

■国際学生セミナー

第27回	11月17日～19日 (2泊3日)	(未定)	(未定)
------	----------------------	------	------

■大学教員懇談会

第37回	7月8～9日 (1泊2日)	目標見えぬ大学教育—少子化・大衆化時代の中で—	有馬朗人、黒木哲徳、吉岡元子 潮木守一、覧具博義
------	------------------	-------------------------	-----------------------------

■大学教員研修 (FD) プログラム

第20回	9月16～17日 (1泊2日)	授業が変われば〇〇が変わる—授業技術の解剖学—	山中速人、安岡高志、徳高平蔵 カワン・スタント
第21回	1月13～14日 (1泊2日)	(未定)	(未定)

■大学職員研修 (SD) プログラム

第3回	7月25～26日 (1泊2日)	大学職員の役割—新しい発想の下での教育・研究支援から大学運営まで—	原田康夫、絹川正吉、孫福 弘 金子誠二
-----	--------------------	-----------------------------------	------------------------

■土曜セミナー

第7回	7月22日	忍者漫画の時代	四方田犬彦
-----	-------	---------	-------

■「世界とアメリカ」セミナー

第1回	6月30日～7月2日 (2泊3日)	パクス・アメリカーナの50年	リチャード・クローニン、石井 修、宇佐美 滋 小久保康之、五味俊樹、佐々木卓也、鈴木祐二 関場晋子、高松基之、滝田賢治、渡辺啓貴
-----	----------------------	----------------	--

■フィールドワーク体験セミナー

第1回	8月23～29日 (5泊7日)	ハワイスタディーツアー (ハワイ・オアフ島)	山中速人
第2回	未定 (2001年2 or 3月)	シェークスピア観劇ツアー (ロンドン・ストラトフォード)	本橋哲也

※詳細が決定次第ご案内させていただきます。

お問い合わせ・お申し込みは企画・広報係まで TEL…0426-76-8532

FAX…0426-76-0266

E-mail…iush-kikaku@mub.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.mesh.ne.jp/iush/>

●館長室から●

一月二十六日に、当大学セミナー・ハウスの飯田宗一郎名誉館長が急逝された。前号ニュースの印刷直後のため、急遽折り込みで皆様にもお知らせした通りである。

飯田名誉館長はこの大学セミナー・ハウスの設立と運営に心血を注がれた。本号および次号で由縁の方々に思い出を記して載せており、十月一日には御遺徳を偲ぶ企画もある。

この七月で当ハウスも開館三十四年になるが、この間に世の中は激変した。当時の学園紛争の一端であった大学管理の動きを現在の大学改革の流れと並べ思い起こすと隔世の感がある。世界情勢も冷戦二極構造から民族地域紛争多発の形となり、新たな疾病の出現や環境の変化も人類を別の形で悩ませている。

教育環境も様変わりし大学も「高校化」した。他の授業を休むことを意にも介さず、週日に先生方との宿泊ゼミで真理を語る熱意も、教員や学生の点検評価の形に縛られる今では難しいのか、夏休みなど以外の週日の利用は激減している。このような大学教育からどのような人材を期待すべきか、故名誉館長の忌憚なき教育論をお聞きしたい。昨今である。

セミナー・ハウスも、新時代に本来の理念を如実に維持発展させるかが問われている。故名誉館長のご冥福を改めてお祈りする。(佐野)

表紙の写真「茅ぶきの民家を移築した遠来荘。地域の方々に茶会や囲碁の集いなどにご利用いただいている。